



連載

ビブリオ・トーク  
-私のオズメ-

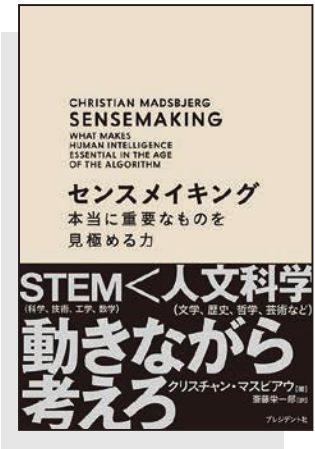
… 上松恵理子 (武蔵野学院大学)

## センスメイキング

本当に重要なものを見極める力

クリスチャン・マスビアウ 著, 斎藤栄一郎 翻訳

プレジデント社 (2018), 368p., 1,800 円+税, ISBN : 978-4833423069



## センスメイキングとは

センスメイキングとは実践的な知の技法である。アルゴリズム思考は「量」をこなし、膨大なデータを処理できるが、センスメイキングの力があればそれを深掘りして「奥行き」を追求することができる。

ルーツを見ると実践知をフロシネスと提唱したギリシャの哲学者、アリストテレス (Aristotelés) にたどり着く。フロシネスとは知識と経験の両方を融合したものである。無機質な情報と数字だけのすべてを削ぎ落した薄いデータだけでは、ひとたび市場に変化が生じると迷走する可能性が高い。そのような状況下では、本能的な文脈に立ち返り厚いデータの本領を発揮されるという。

今、人々は STEM (科学・技術・工学・数学) やビッグデータからの知識一辺倒になっている。人間の価値や判断は先の見えない変化がつきものだが、確実なデータと自然科学的な手法のみに偏り、人間の営みを物理法則や機械的メカニズムだけで説明しようとする自然科学の法則で割り切れないあらゆる形式的文化的知識に対して感度が鈍ってしまう。そのため人文科学や社会科学のトレーニングも大事であるという。

これらのことを鑑み、本当に重要なものを見極める力、目利きになる方法とは何かを多くの事例で明らかにしている。

## センスメイキングの事例

スーパーマーケット事例でも薄いデータ対応の限

界を示している。本書にあったスーパーマーケットの事例では、ビッグデータの分野ではエキスパートで、対象セグメントについては完璧に理解し、顧客ごとに抽象的なセグメントモデルが用意されていた。たとえば夕方来店する仕事を持つ女性客が主に購入する商品もさっと調べることができ、データ通りの予測をつけることが簡単だった。

しかし、実際にはそうとはならなかった。ダイニングテーブルの写真を何千枚か撮影した結果、調査対象の全地域でテーブルが食事とは無関係なものであふれていた。都市部では毎日5時に帰宅し6時に食卓につける人などほとんどいないため、事前に献立をきっちり計画して、買い物リストに沿って食材を買う人など少なかったのだ。その時々気分に応じて直感的に買い物をしていたことが分かった。

このことが示すことは、購入点数や来店客のタイプをカウントしたり追跡したりするのが重要ではなく、体験を現象として捉えなおすことの重要性であった。店のどこに何があるのか分かりやすく配置し、簡単で健康的な夕食の材料が豊富にする「夕方の慌ただしさ」への対応こそが求められたのだった。

## 目利きになる

求められるのはデータの目利きになることである。「これまではこうなる」という数字だけで筋を通そうとするアルゴリズムでの判断は先行き不透明な時代に意味を持たない。

前例のない新型コロナウイルスに立ち向かってい

私たちの社会は、情報がとても重要なことを提示している。このような大変化の時代には、企業や組織が先行きに不透明感を抱くのが現実である。センスメイキングはこの手の恐怖や不安を切り抜けるための道筋を示す。データの分析ツールは哲学、文化人類学、文学、歴史学、芸術学などの多くの分野から集めた厚いデータを採り入れて、適切な文脈を選ぶように誘導してくれる。また、センスメイキングによりデータを組み合わせ、何かを的確に語らせるための切り口が身につく、データの総和を大きく上回るような解釈ができるようになるのである。

世界が脅威にさらされている今だからこそ、センスメイキングは、本当に重要なもの、注目すべきものを見極める力を与えてくれる重要な概念といえるだろう。

(2020年4月13日受付)

上松恵理子 (正会員) uematsu@star.rcast.u-tokyo.ac.jp  
武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、本会 (情報処理教育委員会・データサイエンス教育委員会・教員免許更新講習委員会・会誌編集委員会) 委員。

## 書評 (ビブリオ・トーク)・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。書評に関しては、「ビブリオ・トーク—書評—」、「ビブリオ・トーク—私のオススメ—」の2つのカテゴリを設けます。
  - a-1) ビブリオ・トーク—書評—: 過去2年間に出版された、本会会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
  - a-2) ビブリオ・トーク—私のオススメ—: お気に入りの本の紹介。
  - b) 会議レポート: 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本会会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格  
原則として本会会員に限ります。

### 3. 応募の手続き

- 1) 表題: ビブリオ・トークの場合は、書評もしくは私のオススメの投稿カテゴリ、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名 (会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先 (住所、E-mail、Faxなど) の記載を忘れずに。
- 3) 本文: ビブリオ・トークは1,500字以内または3,000字以内 (または2ページ)。会議レポートは2,100字前後で書く。
- 4) その他: (必要であれば) 参考文献、付録、図、表をつける。詳しくは「原稿執筆のご案内/書評・会議レポート」(<https://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyonews.html>) を参照してください。

### 4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会が審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会/応募先 一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

